

# マツダ21世紀労使共同宣言

(於：第56回定期大会)



## マツダ21世紀労使共同宣言

マツダ株式会社(以下「会社」と呼ぶ)とマツダ労働組合(以下「組合」と呼ぶ)は、1986年の「マツダ労使宣言」採択後、その基本精神の下でマツダの長期的な繁栄をめざして、一致協力して行動してきた。

しかしながら、この15年の間、われわれの歩んだ道程は決して平坦ではなかった。そして西暦2000年の節目において、われわれは未曾有の危機に直面し、労使関係史上初めて雇用に関する苦渋の選択をせざるを得ない状況に至ったのである。

このような事態を二度と繰り返してはならない。そのためには、マツダが国際競争力を回復し、その存在意義を地球的規模で評価されることが必要である。深い相互理解と信頼に立脚しながら、双方が各々のなすべきことをコミットし、「最高のクルマとサービスでお客様に喜びと感動を与え続ける」企業に変革させていくこそ、労使が果たすべき最も重要な責任であり、マツダの社会的使命を果たすことにつながる。

グローバルな規模で競争が激しさを増し、環境・安全等への社会的ニーズが高まる中、われわれが達成せねばならない課題は多く、かつ重い。変革を担い、課題を達成していくのは言うまでもなく「人」である。従業員一人一人が主役であることの意識を持ち、より高いモチベーションで課題に挑戦し、成果を上げる「強い、燃える集団」になってこそ、われわれの目指す目標は達成できる。

会社と組合は、以上のような共通認識のもと、21世紀最初のマツダ労働組合定期大会において、マツダの繁栄に向けた「21世紀労使ビジョン」と「労使相互コミットメント」を以下の通り採択する。

### 1. 21世紀労使ビジョン

会社と組合はパートナーとして「最高のクルマとサービスでお客様に喜びと感動を与え続ける」ことを実現し、マツダを際立った存在感と競争力そして社会的価値を持つ企業とするべく、一致協力して行動する。

### 2. 労使相互コミットメント

#### 1) 労使関係の重視と発展への努力

会社と組合は、相互理解・相互信頼の基調の下、労使関係がマツダ存立の最も重要な基盤であることを認識するとともに、さらなる発展に向けて労使が努力し続けることを約束する。

#### 2) 変革に向けた労使の役割遂行

会社と組合は、お互いの意思を尊重し合いながらたゆみなく変革を志向する。組合はよきパートナーとして会社に建設的な提言を行うことを約束する。会社もその提言に真摯に耳を傾け、目指す目標の実現に向けた施策を組合と協力して推進することを約束する。

#### 3) 魅力的かつ先進的な労働条件確立への努力

会社と組合は、21世紀労使ビジョンを標榜する企業に相応しい、魅力的で先進的な労働条件の確立に努力することを約束する。

#### 4) 従業員の成功に向けた最大限の支援

会社と組合は、従業員一人一人が自らの成功を果たし、グローバルなビジネス環境の中で持てる能力を十分に発揮することができるよう、あらゆる視点に立った支援を行うことを約束する。

#### 5) 社会とのコミュニケーションの深化発展

会社と組合は、社会に対してマツダの心と姿勢を理解してもらえよう、積極的な行動を行っていくことを約束する。

2001年9月30日

マツダ株式会社  
代表取締役社長 マーク フィールズ

マツダ労働組合  
執行委員長 小田 一幸